

「占い」もひとつの「情報」として考えると利用価値が高くなる。
 「占い」にしばられる事なく積極的に活用すると新しい明日がみえてくる。

竹村 亜希子

プロフィール

名古屋生まれ 淑徳高校卒
 普通のOLから占い師へ転身
 現在、占い集団「占いの玉手箱」をみずから主宰
 「フライデー」「中日新聞」の占いコーナー執筆をはじめ
 「運を呼ぶ化粧・逃す化粧」の監修等を手がける



今一番トレンドイな占い師として名古屋で、又東京と忙しい中、時間きっかりにシツクな黒のワンピース姿又現場を訪ねてくださった竹村さん占いの魅力・ビジネスとのかかわりそして人生について伺ってみました。

竹村さんのまわりには、たくさんのお占いの師が集まっています。

この地方のプロの占い師、年令は20才から60才位まで多士済々の顔ぶれが30名程、その方達を占い集団「占いの玉手箱」を結成し、私が主宰しています。

本の出版、雑誌の占いコーナー監修、イベントやパーティーと多忙です。又、よくマスコミにもとりあげていただいています。

そういうプロの集団をたばねていく御自身はどういうきっかけから占いはいられたのですか。

おもしろいきっかけなんです。普通の主婦をやっていた頃テレビの連続ドラマで「艶歌の竜」という、たしか芦田伸介と秋吉久美子が出ていたと思うんですが、それを毎回見ていて、こういう生き方っておもしろいな、私もやってみたいなと思いました。

ストーリーは一口でいうとお金を使わずに一人の名もない歌手を大スターに育てるというサクセスストーリーでした。

さて、じゃ自分で本当に何かができるのかなと考えた時、私が小さな時、「夢の中でこの家を見た」という仙人のような人が熊本山奥からふらっとやってきて私の家に住み込み、人相・手相・易学を教えてもらった経験があるのです。ですから、それを何とか生かしたいと朝から晩まで今迄の体験を反すうしたり占いの本をかたっぱしからひもといたりしていました。そうした事から現在に至った次第です。

具体的にどういった占いを？

易・手相・人相・占星・姓名判断・タロットカードなど何でもします。でも、私は占いは情報だと考えていますので、手法はちがっても結局、引き出すものは同じなんです。でも占いより、専門バカとならない様、人間としての総合力をつけるよう、むしろ自分自身に投資をしています。遊びも含めて。

「占いは情報」と云われましたが、すぐわかりやすい新しい視点だと思えます。そのような発想はどこから生まれてきたのでしょうか。

占いは知っていたのですが、占いの業策を知らなかったから明るいイメージで発想出来たんだと思います。従来の業界は封建的でおどろおどろしく何人も近づきたくない神秘的なイメージであったのですが、私はまず占いを使っていたかった。

